

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅲ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤 優子・佐藤 麻希子	実務経験の有無	有	開講期	4年前期

【授業の主題】

分娩期は人生のうちでも目に見える身体的・心理的・社会的・発達の变化を伴う時期であり、正常を逸すると母児の生命に直接的に大きな影響を及ぼす。この時期に助産師の行う診断とケアは、変化を正確に把握し適時に対応することが求められ、かつ現在および今後の健康状態の変化や経過を正確に予測した助産診断を行うことが極めて重要である。

本科目では、分娩期における助産診断の理論と技術を学び、助産過程の展開・実践の理解を深める。また、分娩期におけるハイリスク・異常分娩、救急処置などの基礎的知識と技術について学ぶ。

【到達目標】

1. 分娩進行に伴う母子の健康状態に応じた助産診断の基礎的な知識を習得し、助産過程の展開ができる。
2. 分娩期におけるハイリスクおよび異常分娩、産科手術、産科救急について理解できる。
3. 正常からの逸脱予測と予防のためのフィジカルアセスメントと助産ケアを学ぶ。

【授業計画・内容】

第1回	分娩の生理	(工藤)
第2回	分娩期の心理社会的変化	(工藤)
第3回	分娩期の助産診断	(工藤)
第4回	助産過程とフィジカルアセスメント	(工藤)
第5回	分娩介助の意義・原理	(工藤)
第6回	分娩介助時の技術	(工藤)
第7回	ハイリスク・異常分娩	(佐藤)
第8回	産科手術・産科的医療処置	(佐藤)

【授業実施方法】

主に講義

【授業準備】

事前に基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱでの学習内容、および教科書・資料・参考文献を復習しておくこと。各講義・演習で学習した知識・技術を活用できるように予習して臨むこと。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅳ

【教科書等】

助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期. 医学書院
助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生時期・乳幼児期. 医学書院

【参考文献】

日本助産診断・実践研究会：実践 マタニティ診断第4版 医学書院
北川真理子、内山和美編：今日の助産改訂第3版 南江堂
武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2産科編第3版 MEDICAL VIEW
日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編2017 日本産婦人科学会
その他は授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 100%

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

特定機能病院において助産師として勤務しハイリスクの妊産褥婦、新生児のケアを行ってきた。臨床での根拠のある看護実践の大切さを伝えたいと思う。

【学生へのメッセージ】

分娩介助技術習得のために必要な知識です。これまで以上に予習・復習が重要になります。教科書や参考文献を活用した積極的な自己学習の積み重ねが大切です。各学習の機会を大切にし、効果的な学習ができるように努力しましょう。